

《第 521 回(2025 年 2 月 13 日) 子どもの本の読書会記録》参加者:9 人

時間:10:00~11:30 場所:オーテピア 4 階集会室

## 『西遊記』上・中・下 呉 承恩/作, 君島 久子/訳, 瀬川 康男/画 福音館書店

2月の課題図書は、『西遊記』でした。玄奘という僧の実話を基に古くから中国で講談として語られていたお話が、明の時代に物語としてまとめられた「西遊記」。今回は、福音館文庫から上・中・下巻で出版されたものを読みまし。百回のお話が講談調で書かれています。

次に、読書会に参加した方の感想を紹介します。

\*\*\*\*\*

●ボリュームがあったが、なんとか読み終わった。有名な本なので読む機会になってよかった。同じようなパターンの話が多かった。妖精に悪いイメージがあることや、悟空が菩薩様に悪口を言ったりするところにおどろいた。早く天竺に着かないかと思って読んでいたが、帰りは仏になったからか早かった。

●菩薩様や如来様、誰が一番偉いのか分からなかった。三蔵が人間臭すぎる。三人の弟子にえこひいきがあるように思えて、悟空がいじらしかった。『僕僕先生』(仁木 英之/著 新潮社)を思い出した。悪い妖怪へのお仕置きが面白かった。瀬川さんの挿絵も良かった。

●仏教や道教などいろいろな宗教が交じり合っているが、けんかしていない。当時の宗教観が反映されているのか。地図が掲載されていないことが残念。三蔵含め一行全員が悪さをして罪をあがなうために旅に出ていることにびっくりした。最後に真の姿に戻る。「行きて帰りし物語」だと思った。

●登場人物が多く、地上・天上などいろいろ出てきて分からないところもあったが、語りが面白かった。知っている金角銀角や牛魔王の話は面白かった。53回目の三蔵と猪八戒が妊娠する話がハラハラして、おどろいたエピソードだった。古典に触れ、土台を知ることができてよかった。

●講談調で、人に聞かせるために楽しく書かれている。三蔵が、頑固で弱虫で泣き虫。悟空はよくつくして、八戒は人くさい、沙悟浄は忠実で誠実。三人の弟子は、三蔵をよく助けていると思った。挿絵も分かりやすくよかった。百回の連続ドラマを見ているよう。読んでよかった。面白かった。

●妖怪が出てきて、面白く読んだ。仏教を普及させるために書かれた物語だなと思った。話の中でも本当に困ったときには仏が助けてくれる。仏教を知っていないと楽しめない物語。ヨーロッパの人たちには理解されないかもしれない。中国と日本のつながりを感じた。

●いつまでもたどり着かない物語という印象。絵本などでは途中の戦いしか描かれず、天竺までたどり着かない。この本は、細かいところが楽しく、決まりきったパターンも楽しめた。ドラマのイメージが強かったが、悟空も思ったほど傲慢ではない。長い年月をかけて苦難を乗り越えてこそその結末だと思う。帰ってくるまで描かれていてよかった。

●悟空が石から生まれるところなど、こういう経緯があったのかと初めて知った。三蔵のイメージも違って、できた人というわけではなく、普通の人。強い悟空、妖怪との戦いなど、今の子どもたちにも楽しまれている物語だと思う。一部だけではなく、全編を通して読む楽しさがあると思った。

次回 3月13日(木)10:00~11:30 オーテピア 4 階集会室

□『伝言』中脇 初枝/著 講談社

※申込み・参加費は不要です。